29【P2】Ⅱ-261

日向薬事始め(その 1)

〇岩井 勝正[1], 井本 真澄[2], 山本 郁男[2]([1]宮崎県薬剤師会薬事情報セ,[2]九州保福大薬)

【目的】古く宮崎は日向(ひむか)と言われ国生みの神話の里でもある。平成 15 年 4 月から九州保健福祉大学薬学部が延岡の地に誕生した。南九州（大分、宮崎、鹿児島、沖縄）に皆無であっただけに地元の応援は熱い。しからばこの土地に薬学が生まれる素地があったのであろうか。これが本発表の目的である。

【結果・考察・概要】その結果、秋月橘門（あきづききつもん)、賀来飛霞（かくひか）等の本草学者の名を見出すことが出来た。本報では前者の秋月について記す。秋月は延岡本草学の発端者であり、文化 6 年（1809 年）東諸県郡国富町本庄に生まれた。氏は秋月、性は劉、旧名大可。延岡藩主内藤家に仕える家柄であり、祖父（西信)、父（逍遥）とも本草学に詳しかった。16 歳のとき大分県豊後日田の広瀬淡窓の門に入る。同門に大村益次郎、高野長英がおり、日向から 69 名が入門していたという。秋月は後に医学も学んだ。彼は長じて漢学者として名を成したが延岡藩（7 万石）に本草学を興した人ということができるであろう。